

No.創出-1-6	壁面緑化などによる暑熱対策
-----------	---------------

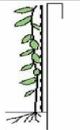
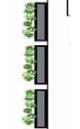
技術の目的			
建物壁面をつる性植物や緑化パネルなどで覆い、壁面の温度上昇を抑制する。周辺街路や建物内の暑熱緩和とともに良好な景観形成を図る。			
導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

**技術の内容・事例**

■技術の内容

- 壁面緑化の効果<sup>出典1</sup>
  - 緑化することで、壁面の高温化を抑制し周辺の体感温度を低下させる効果がある。
- 壁面緑化の種類<sup>出典2</sup>
  - 壁面緑化は、その種類によって設置方法やコスト、維持管理費、利用する植物などが大きく異なる。設置する場所の特性を把握し、その場所にあった手法、植物の選択が重要である。

表 壁面緑化の種類と概要

種類	概要	イメージ
直接登はん型	壁面を登はんし、覆うタイプ。原則として壁面に直接付着するため、特別な設備を必要としない。一般住宅を中心に最も普及している工法。	
巻き付き登はん型	ネットや支柱などの支持体を設置し、そこに植物を絡ませて壁面を覆うタイプ。原則として壁面に直接付着しない。景観上のアクセントやランドマーク的な効果を期待して用いられ、比較的小面積でも用いられる。	
下垂型	壁面上部若しくは屋上部にプランターなどを設置し、そこから植物を下垂させて壁面を覆うタイプ。原則として壁面に直接付着しない。	
プランターユニット型	プランター型は壁面に設置したプランターから植物を登はんあるいは下垂させて壁面を覆うタイプ。ユニット型は壁面に植栽基盤を設置し、そこに植物を生育させるタイプ。壁に直接若しくは補助資材などに設置し、花など様々な植物が植栽可能となるため、高いデザイン性が期待できる。	

■導入事例

- 本区における導入事例を以下に示す。



■出典・参考資料

- ・ 1 環境省「まちなかの暑さ対策ガイドライン改訂版」(平成 30(2018)年 3 月)  
[https://www.env.go.jp/air/life/heat\\_island/guidelineH30.html](https://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guidelineH30.html)
- ・ 2 東京都「壁面緑化ガイドライン」(平成 18(2006)年 3 月)  
[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/heat\\_island/green\\_guidelines.html](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/heat_island/green_guidelines.html)

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
◎	◎	○		○	

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●	●					●	●		●			●	●	●	●	●